マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第2部 根拠を見つける

U04　気持ちの根拠を拾う

（物語文・随筆・詩）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「夕焼けの帰り道」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　気持ちの根拠のルール

R04-1　映像にして読む

セリフ・表情・行動を、頭の中で映画のように映像にしながら読む。うかばないときは「どこにいる？」「だれがいる？」「どんな顔？」の3つを考える。

R04-2　人物と前書きに印

主人公の名前を〇、立場やできごと（何があった人か）に線を引く。前書きも本文の一部で、気持ちの根拠になる。

R04-3　気持ちの根拠は言動から先に

「本文のここに〇〇という言動（セリフ・行動・表情）があるから、□□という気持ち」と言えるものだけを使う。「なんとなく」「自分ならこう思う」で決めない。

R04-4　情景は確かめに使う

天気や景色に気持ちが表れることはあるが、「晴れ＝明るい気持ち」とは決まらない。まず言動で気持ちを決め、情景はそれと合っているかを確かめるのに使う。

R04-5　不満・悩み→気づき→変化は「多くの場合」

物語文に多い流れだが、いつもではない（傾向）。気づきや解決が書かれていない話では、本文に書いてあるところまでで答える。「前向きになった」を勝手に足さない。

R04-6　随筆は「経験」と「感想」

随筆では、筆者が気持ちを直接書いていることが多い（「うれしかった」「～と思う」）。できごと（経験）と感想の文の両方に印をつけ、気持ちが変わった所をさがす。

ルールの番号（R04-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「夕焼けの帰り道」

① 六年生のカイトは、サッカーの試合で、最後のペナルティーキックを外してしまった。チームは一点差で負けた。

② 試合のあと、みんなは「気にするなよ」と声をかけてくれた。カイトは「うん」と答えたが、だれの顔も見られなかった。

③ 帰り道、空は一面の夕焼けだった。川の水も、オレンジ色にかがやいている。けれどもカイトは、下を向いたまま、足もとの小石を何度もけりながら歩いた。

④ 家に帰ると、カイトはスパイクを玄関に放り出し、自分の部屋にこもった。夕ごはんも、ほとんど食べなかった。

⑤ その夜、父が部屋に入ってきて、古いアルバムを開いた。中学生の父が、ユニフォーム姿で泣いている写真があった。

⑥ 「県大会で、ＰＫを外したときの写真だよ。くやしくてね、次の日から毎朝、一人でボールをけりに行ったんだ。」

⑦ カイトは写真をじっと見た。いつも大きな声で笑っている父にも、こんな日があったのだ。

⑧ 「次の試合は、どうだったの。」

⑨ 「決めたよ。」父は少し照れくさそうに笑った。

⑩ カイトはしばらくだまっていたが、やがて立ち上がった。そして、玄関のスパイクをそろえてはくと、ボールをかかえて、外へ飛び出していった。

問　――線部「ボールをかかえて、外へ飛び出していった」とありますが、このときのカイトの気持ちを、それまでの気持ちとのちがいがわかるように、五十字以内で書きなさい。

解き方

1. **手順1　人物とできごと**
   ①段落：六年生のカイトが、最後のPKを外し、チームが負けた（悩みのはじまり）。
2. **手順2　言動から気持ちを決める**
   ②だれの顔も見られない／③下を向いて小石をける／④スパイクを放り出し、部屋にこもる・夕ごはんを食べない＝落ちこみ・くやしさ（R04-3）。
3. **手順3　情景はわなになる**
   ③段落の夕焼けやかがやく川は明るい景色。でも「けれども」の後ろの行動は暗い。情景だけで「明るい気持ち」と決めるとまちがい（R04-4）。
4. **手順4　きっかけ**
   ⑤⑥段落：父もPKを外して泣いたが、毎朝練習して次の試合で決めたと知った。

5. 手順5　変化の後

⑩段落：放り出したスパイクを「そろえてはく」・ボールをかかえて飛び出す＝もう一度練習しようという前向きな気持ち。④と⑩の行動をくらべると変化がはっきりする。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
変化の後（言動）	スパイクをそろえてはき、ボールをかかえて飛び出す＝また練習しよう	⑩	◎ 入れる
変化の前（言動）	顔を見られない・小石をける・スパイクを放り出す＝落ちこみ	②③④	◎ 入れる
きっかけ	父もPKを外したが、毎朝練習して次の試合で決めたと知った	⑤⑥⑨	○ 入れる
情景（わな）	一面の夕焼け・かがやく川（明るい景色）	③	× 気持ちの根拠にしない
根拠なし	次の試合で必ず決められると自信を持った	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　50字／50字以内

PKを外して落ちこんでいたが、父も失敗のあと練習して決めたと知り、自分も練習しようと前向きになった。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
変化の後：もう一度練習しよう（前向きになった）	5点
変化の前：PKを外して落ちこんでいた（くやしかった）	3点
きっかけ：父も失敗のあと練習して決めたと知った	1点
「～だったが、～になった」と、ちがいがわかる形	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「夕焼けがきれいで、明るい気持ちになった。」	情景だけで決めている。③の行動(下を向いて小石をける)と食いちがう。0点。
「次の試合で必ず決められると自信を持った。」	本文に書いていない(根拠なし)。その部分は0点。
「また練習しようと前向きになった。」	それまでの気持ち(落ちこみ)が無く、ちがいがわからない。3点引いて7点(きっかけも無ければ6点)。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　物語文「ポケットの手紙」

① 明日、ミナは遠くの町へ引っこす。四年間となりの席だったユイとも、今日でお別れだ。二人は、毎朝いっしょに登校し、放課後も、よく図書室で本を読んだ。

② 放課後、ユイは何も言わずに、ミナの手に小さなふうとうをにぎらせた。「家に着いてから読んでね。」それだけ言うと、ユイは走って帰ってしまった。ユイの目が、少し赤くなっているように見えた。

③ 段ボールの箱が積まれた部屋で、ミナはふうとうを何度も手に取った。ふうとうには、ユイの丸い字で「ミナへ」と書いてあった。開けようとしては、また机の上にもどした。

④ 母が「読まないの？」と聞いた。ミナは首を横にふった。

⑤ 「読んだら、本当にお別れになっちゃう気がする。」

⑥ 母はそれ以上何も言わず、ミナのかたにそっと手を置いて、部屋を出ていった。

⑦ 窓の外では、雨が静かにふりつづいていた。

⑧ 夜になっても、ミナはふうとうを開けなかった。ふうとうをパジャマのポケットにしまったまま、ミナはしばらく、暗い窓の外を見ていた。ポケットの上から、ときどき、ふうとうの角にそっとふれた。

問　――線部「ふうとうをパジャマのポケットにしまったまま」とありますが、このときのミナの気持ちを、五十字以内で書きなさい。

① 要素表を書こう

根拠（言動・情景・きっかけ）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　随筆「ぬかどこの朝」

① わたしの祖母は、毎朝、台所のすみにあるぬかどこに手を入れて、かきまぜていた。ぬかのにおいが苦手だったわたしは、その時間になると、いつも台所からにげ出していた。

② 祖母が入院したのは、去年の春のことだ。「ぬかどこは毎日まぜないと、だめになってしまうのよ」と言われ、しかたなく、わたしがかきまぜることになった。

③ はじめは、鼻をつまみ、指先だけでおそるおそるまぜた。ところが一週間ほどたつと、ぬかの冷たさや、朝ごとに変わるにおいが、少しずつわかるようになってきた。暑い日には、においが強くなる。雨の日には、しっとりと重くなる。

④ 退院した祖母は、ぬかどこに手を入れると、「ちゃんと生きてるね」と笑った。そのとき、わたしは、なんだか自分がほめられたようで、うれしかった。

⑤ 毎朝のぬかどこは、ただの家事ではなかったのだと思う。祖母は、手のひらで、季節や天気と話をしていたのだ。今では、わたしも、朝の台所に立つのが少し楽しみになっている。

問　――線部「朝の台所に立つのが少し楽しみになっている」とありますが、筆者の気持ちはどのように変わりましたか。はじめの気持ちとのちがいがわかるように、五十字以内で書きなさい。

① 要素表を書こう

根拠（言動・情景・きっかけ）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　物語文「ポケットの手紙」

解き方

1. **手順1　人物とできごと**
   ①段落：明日引っこすミナ。四年間となりの席だったユイと今日でお別れ。

2. **手順2　言動から気持ち**
   ③開けようとしては、もどす／④⑤「読んだら、本当にお別れになっちゃう気がする」＝読むとお別れが本当になるのがさびしくて、読めない（R04-3）。

3. **手順3　もう一つの言動**
   ⑧ポケットにしまったまま、ときどき角にそっとふれる＝手紙を大切に持っていたい。

4. **手順4　気づきは書かれていない**
   物語文は「悩み→気づき→変化」が多いが、この話は、最後までふうとうを開けないまま終わる。「前向きになった」「新しい町でもがんばろう」と足すと、根拠なし（R04-5）。

5. **手順5　情景は確かめに**
   ⑦段落の雨は、さびしい気持ちと合っている。でも根拠の中心は⑤のセリフと⑧の行動。雨だけで書かない（R04-4）。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
言動（セリフ）	読んだら本当にお別れになる気がする＝さびしくて読めない	③④⑤	◎ 入れる
言動（行動）	ポケットにしまい、角にそっとふれる＝大切に持っていたい	⑧	○ 入れる
情景	雨が静かにふりつづく（気持ちと合っているかの確かめ）	⑦	△ 書かなくてよい
根拠なし	新しい町でもがんばろうと前向きになった	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　46字／50字以内

手紙を読むとユイと本当にお別れになる気がしてさびしく、読めないまま大切に持っていたい気持ち。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
読むと本当にお別れになる気がして、さびしい(読めない)	5点
手紙を大切に持っていたい(手放したくない)	3点
ユイとの別れのことだとわかる	1点
「～気持ち。」で終えている	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「新しい町でもがんばろうと、前向きな気持ち。」	本文に気づき・変化は書かれていない(根拠なし)。0点。
「雨がふっていて、悲しい気持ち。」	情景だけが根拠。何が悲しいのか(お別れ)が無い。10点中2点。
「手紙の中身が気になる気持ち。」	⑤のセリフと食いちがう。中身ではなく、お別れが本当になるのがつらい。1点。

練習2　随筆「ぬかどこの朝」

解き方

1. **手順1　経験と感想に分ける**
   随筆は、筆者の経験(できごと)と感想の文でできている(R04-6)。経験＝①～④の前半、感想＝④「うれしかった」・⑤「～だと思う」「楽しみになっている」。
2. **手順2　はじめの気持ち**
   ①段落「においが苦手」「台所からにげ出していた」＝ぬかどこがいやだった。③の「鼻をつまみ、おそるおそる」も同じ。
3. **手順3　変わったきっかけ**
   ③段落：まぜるうちに、ぬかの冷たさや、日ごとに変わるにおいがわかるようになった(暑い日・雨の日)。④祖母の「ちゃんと生きてるね」でうれしくなった。
4. **手順4　変わった後**
   ⑤段落：季節や天気と話すような楽しさに気づき、朝の台所が楽しみになった。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
変わった後(感想)	朝の台所に立つのが楽しみ(季節や天気と話すよう)	⑤	◎ 入れる
はじめ(経験)	においが苦手で、台所からにげ出していた	①③	◎ 入れる
きっかけ(経験)	まぜるうちに、季節や天気で変わる様子がわかってきた	③	○ 入れる
きっかけ(感想)	祖母に笑ってもらい、ほめられたようでうれしかった	④	△ 字数があまれば

模範解答

模範解答　48字／50字以内

においが苦手で台所からにげていたが、まぜるうちに季節や天気で変わる様子がわかり、楽しみになった。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
変わった後:朝の台所(ぬかどこ)が楽しみになった	5点
はじめ:においが苦手で、にげ出していた(いやだった)	3点
きっかけ:季節や天気で変わる様子がわかった(または祖母の言葉)	1点
「～だったが、～になった」と、ちがいがわかる形	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「祖母が元気に退院したので、うれしくなった。」	④の一部だけで、ぬかどこへの気持ちの変化になっていない。10点中1点。
「料理が好きになった。」	本文に書いていない(根拠なし)。0点。
「朝の台所に立つのが楽しみになった。」	はじめの気持ち(苦手・にげていた)が無い。3点引いて7点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U04 気持ちの根拠（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます